

令和5年度 第3回 新潟支部評議会 議事概要

開催日時	令和6年1月16日(火) 15:30～17:00
会場	万代シルバーホテル 橋の間
出席評議員	青柳評議員、秋葉評議員、内山評議員、金子評議員、竹津評議員、近田評議員、宮本評議員〔五十音順〕
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度保険料率(案)について 2. 令和6年度新潟支部事業計画(案)及び保険者機能強化予算(案)について 3. 第3期データヘルス計画(案)について 4. その他
議事概要	
	事務局より各議題について説明を行った後、評議員よりご意見をいただいた。ご意見等は次のとおり。
	<u>議題1. 令和6年度保険料率(案)について</u>
【被保険者代表】	<p>前回は「納得感」というキーワードで申し上げた。</p> <p>加入者は少ない負担割合で病院にかかることができ、それが当たり前と感じてしまっているが、安い金額で受診できるのは本来当たり前のことではない。健康保険制度の課題や、将来の財政見込みを説明し保険料負担に納得してもらうとともに、加入者一人一人が何をすべきかを理解できるような広報を積極的に進めて、持続可能な制度にしてほしい。</p>
【事務局】	加入者に健康保険制度をご理解いただき、納得感を持って取り組んでいただけるよう積極的に広報したい。
【事業主代表】	<p>新潟支部は全国で保険料率が一番低いのが前年と比べると上がっており、事業主や加入者の負担は増える。</p> <p>賃上げムードの中で、大企業中心に賃上げはされているものの物価の上昇の方が上回っている。雇用者総所得は実質では下がっており、社会保障の面での負担感は大きくなる状況である。保険料率がどのように算定されて、保険料がどのように使用されているかも広報してほしい。</p>

<p>【事務局】</p>	<p>診療報酬改定で医療費が抑えられると思うが、保険料率との関連性を教えてほしい。</p> <p>診療報酬は本体部分が 0.88%上がり、薬価部分が 1.0%下がる。協会の負担は 220 億円少なくなる見込み。</p> <p>新潟支部は医療給付に係る第 1 号保険料率の上り幅が 0.07%で全国の 0.04%と比べて大きい。これは、医療給付費の見込の伸び率が全国 3.7%と比べて新潟は 2.9%と低いものの、総報酬額の伸び率が全国 3%に比べて新潟は 1.5%と低く、結果第 1 号保険料率が上がることになる。この部分をどのように掘り下げて説明できるか検討したい。</p>
<p>【学識経験者】</p>	<p>新潟支部は全国一保険料率が低いが、年によって上がり下がりがある。加入者へは、保険料率の変更が常にあるということを前提に、令和 6 年度の料率決定の背景について、事務局できちんと説明していく工夫が必要。</p>
<p>【学識経験者】</p>	<p>昨年の意見にもあるが、新潟県の医療環境は医師数が少なくアクセスが悪いという状況は変わっていない。そういった背景があることも引き続き申し上げたい。</p>
<p>議題 2. 令和 6 年度新潟支部事業計画（案）及び保険者機能強化予算（案）について</p>	
<p>【事業主代表】</p>	<p>歯の健康が全身の健康に影響することから事業計画にもデンタルヘルスを入れていると思うが、歯科健診も健康診断に含めることができるか。</p> <p>また、事業主としては、今年度から健診の費用負担が減りありがたいが、今後さらに下がると良い。40 歳以上の従業員に人間ドックを受けさせているが、費用が高額になっているので負担が減ると嬉しい。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>歯科健診と定期健診が一緒にできないかということについて、2022 年の骨太の方針で「生涯を通じた歯科健診（国民皆歯科健診）」が掲げられたが、その後、定期健診とセットで行うなどの具体的な話は出ていない。ただ、被扶養者の特定健診の受診意欲を高めるためにオプション健診をつけられるようになっており、歯科健診を加えることもできる。現状、新潟県の環境ではすぐに実施とはいかないが検討していきたい。</p> <p>新潟支部では過去に県と連携したデンタルヘルスに関する健康講話の取り組み</p>

<p>【学識経験者】</p>	<p>を行っていたが、コロナの影響等で事業所の希望が減少したために終了した経緯がある。「健康立県にいがた」の5つのテーマで進める健康づくり講座の中で展開していきたい。</p> <p>健診費用について。令和6年度から付加健診の対象年齢が40～70歳まで5年おきに受診できるように拡大したので、今後利用を勧めていきたい。</p> <p>健診費用の補助拡大については、準備金を使えないかという話がブロック評議会に出ていたが、そういった形で使うことが法律上難しいという本部の説明であった。ただ、そういう問題意識は新潟だけでなく関東ブロックの評議員、支部長にもあると感じた。引き続き、この点は議論をお願いしたい。</p> <p>歯科については、歯科医師から聞いた話では、「歯間ブラシ」が有効で、使用している人とそうでない人の寿命に10年差があるという調査もあるようだ。歯科医師会からの協力を得て、そういった手近なところから広報するのがよいのでは。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>健康講座の中でもデンタルヘルスの項目を設ける予定だが、研修を受けるだけではなかなか理解できないこともある。例えば歯周病のチェックを行うなど、体験型の研修を取り入れ、それを生活に活かせるようにしたいと思っている。</p>
<p>【被保険者代表】</p>	<p>色々な取り組みをしている中で、マスコミが注目するような取り組みがあったかどうか教えてほしい。</p> <p>また、新潟県全体の医療を良くしていこうと考えたときに、県や健康保険組合と一緒に一つ一つの広報ができないか。広報の規模を大きくすればするほど、関心が高まるのではないかと考えている。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>マスコミから報道されるような取り組みはなかったため、プレスリリース等でマスコミへの情報発信を行っていききたい。また、実際に事業所で取り組んでいる内容や感想を紹介するような広報を行っていく。</p> <p>広報については新潟県が行う「健康立県にいがた」の事業をベースに新潟支部の事業を行っていくこととしている。</p>
<p>【学識経験者】</p>	<p>新潟支部の支部長が女性であるので、支部長と女性評議員での対談を行うなど、新潟支部にしかできない広報を考えると、注目度も高まるし説得力もあると思う。ぜひ検討してほしい。</p>

議題 3. 第 3 期データヘルス計画 (案) について

【事業主代表】

資料 3 に「運動習慣のある人が少ない」とあるが理由の分析を行っているか。

【事務局】

支部として理由の分析はできていない。県内でも地域で差がある。外での運動というよりも仕事の合間にできる運動を進めていこうと考えている。加えて、運動習慣が低い業種など具体的な調査など進めていければと思っている。

【事業主代表】

新潟では外での運動は難しい。体育館のような室内運動ができる場があれば運動しやすいし、そこに行く費用が安ければ安いほど行きやすい。室内型の体育施設を作るような働きかけがあるといいと思うがどうか。

【事務局】

新潟県や自治体と意見交換をする中で、運動習慣の改善が一番難しいところと感じている。事業所への働きかけだけでは改善しにくい。ウォーキングラリーなど、自治体が取り組む事業を協会の加入者にアピールができていないという声も上がっているので、協会のツールの活用を自治体に提案したい。

【事業主代表】

データヘルス計画にある 3 業態に「運輸業」とある。流通センターの運送組合の理事をしているが、そういった団体と、健康づくりを進めるにはどうすれば実行できるのか話し合えると協会けんぽの広報もできるし、事業の話も進むと思う。講演会のような場での話は楽しくないと、身に沁みない。実感し何とかしようという気持ちにならないと進まないと思う。3 業態の実情を聞きながら連携して改善に向けて努力してほしい。

【学識経験者】

2024 年問題で運転手の労働時間が規制されるが、合理化を進める中で健康づくりにその時間を回すなど、業界が旗振りをするといいのではないか。それを協会けんぽがバックアップできると良い。

健康施設の話では、例えば全国に展開している体育施設を利用できるような機会を増やすということを進めたらどうか。

【事業主代表】

運送業の労働環境は良くなく、人手不足が深刻である。競争も激しすぎて、そういった中で 2024 年問題に対応するのも難しい。運送業の従事者を増やすためには業界全体のイメージアップも大事だと思っている。また、今いる乗務員の健康管理も重要である。しかし、喫煙を例にとると、車内でたばこは吸わないでと言いたいがそう言うと辞めてしまう人もおり、人手不足の中では難しく課題の一つである。

【学識経験者】	<p>データヘルス計画の「血圧を下げる」という目標はハードルが高いと思うが、生活習慣の改善のなかで取り組みやすいのが運動だと思う。「食塩摂取の機会を減らす」というのは難しいが、「運動習慣をつけていけば病気になりにくくなる」というのを健康講座などで力を入れていくのがよいと思う。</p>
【事業主代表】	<p>3点申し上げる。</p> <p>①「35歳から64歳の平均収縮期血圧を4mmHg下げる」という目標について、平均年齢が上がっていくと自然に考えれば血圧が上がるリスクが高まる。6年間で4mmHg下げるという目標だが、年度ごとの目標も合わせて、どう強化することで達成するのか？</p> <p>②資料3のP2健診受診率の目標値の設定方法を知りたい。</p> <p>③健康経営の制度について。経産省、協会けんぽ、新潟県とそれぞれで行っている状態で、県の制度には参加しているが、協会けんぽの宣言を行っていない事業所もあると聞いた。できれば相乗りするような形にしたほうが、事業所にとっても分かりやすいし、手続きの二度手間も避けられる。</p>
【事務局】	<p>①「35歳から64歳の平均収縮期血圧を4mmHg下げる」は確かに高いハードルだが、健康日本21を根拠に設定している。3業態だけでなく、全体的に下げていかないと目標は達成できない。特に3業態については、塩分を減らすのは難しいので果物を多くとる（カリウムを多くとる）などの目標を設定して、関係団体にもご理解をいただき、事業所に具体的な取り組みを進めてもらうことで目標を達成したい。</p> <p>②健診の受診率は、2年度ずつ1業態ごとに平均の受診率の達成に向けて取り組む。</p> <p>③健康経営については、確かに事業所としては分かりにくい部分がある。基本は保険者と一緒に健康経営を取り組み、国・県・新潟市がそれを評価してインセンティブをつける仕組み。協会けんぽは健康経営の入り口としてとらえ、取り組みの先に国や県の認定制度がある。県や新潟市の制度に認定されている事業所で協会にはエントリーしていないところもあり、そこには勧奨している。</p>
【学識経験者】	<p>それぞれの制度で違いがあれば、それぞれに違うメリットを受けることができるかもしれないが、同じような内容であればわかりにくいと思う。</p>

特記事項

- ・高野評議員、森澤評議員は所用により欠席。
- ・次回評議会は、令和6年3月開催予定。